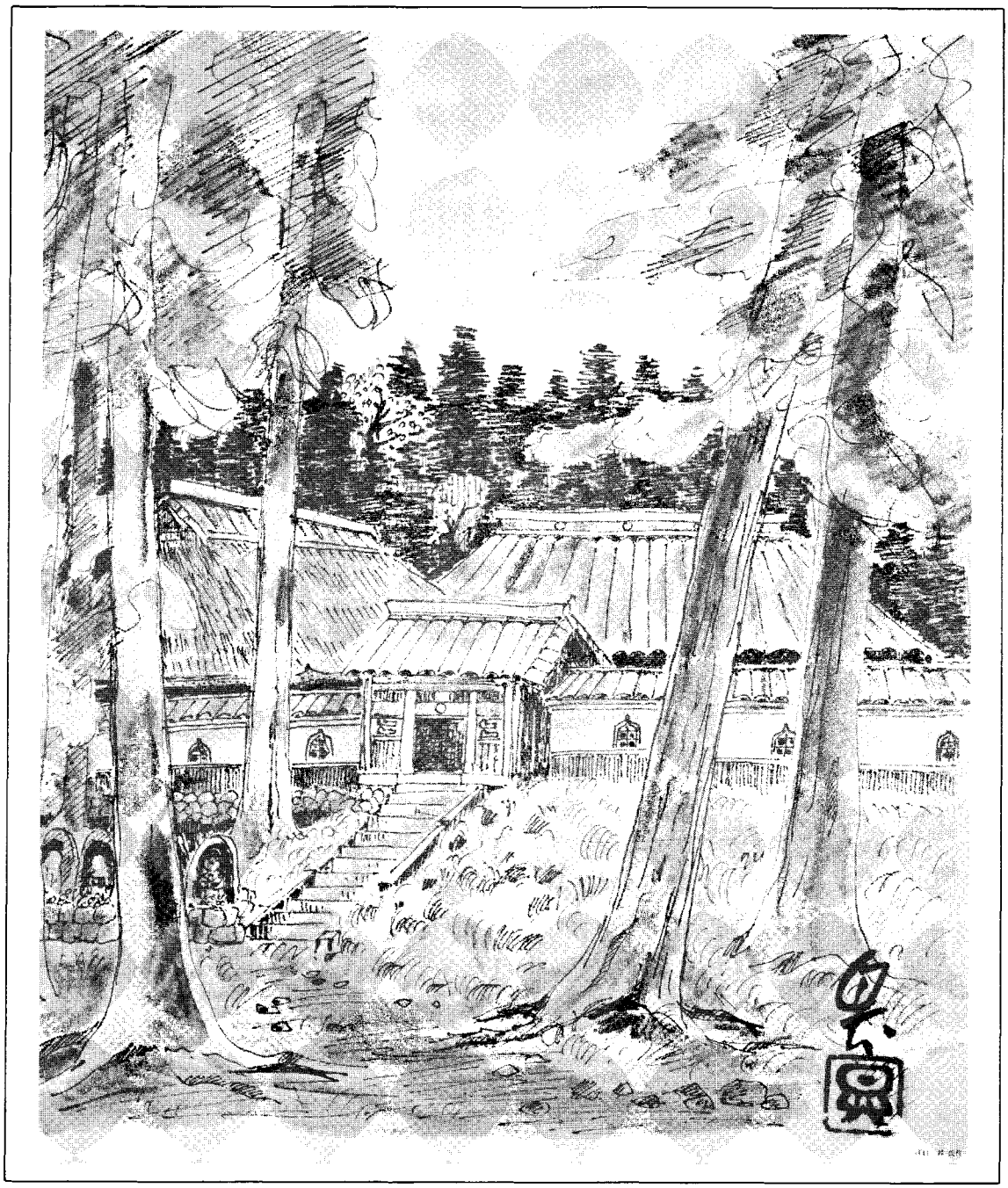
臥龍が丘は緑なり

松高同窓会東京支部会報

平成元年度支部大会号

平成元年６月３日



新潟県立村松高等学校同窓会東京支部　No. 7

東京支部大会プログラム

平成元年6月3日（土）　午後3時
於　羽沢ガーデン

第　一　部

開会挨拶	場内司令	伊藤　勇五（中33）
	司会	八木又一郎（高15）
		大橋　貞夫（高10）
		深見　洋子（高7）
		簗取　錦二（高7）
出席高令者記念品贈呈	支部長	
経過報告	事務局長	中村　倉吉（中22）
支部長挨拶		佐伯　益一（中27）
来賓挨拶	同窓会長（村松町長）	茂野　敏郎（中17）
来賓挨拶	学校長	渡辺　建夫
関係職員紹介及挨拶		酒井　邦男（高5）
		関谷　正中（高6）
		広井　基良

第　二　部

生徒による吹奏楽	指揮	関谷先生他女子10名
懇親会開会		
乾杯		
歓談・会食		
抽選会		佐久間英輔（高6）
		鈴木多喜男（高4）
		篠川　恒夫（高2）
写真		堀　直昭（高8）
		鶴巻　浩（高10）
余興		有志
手締め		支部長
万才三唱		同窓会長
閉会挨拶		沢出　赳允（高6）

大会運営委員は支部幹事全員（氏名省略）

（表紙について）
巨杉参道の慈光寺山門（室町時代応永10年の開基である）
作　者　江口　昇氏（1933年村松町生）
略　歴　松高3回生，新大卒，松高教諭，新潟県美術連盟会員，新日本美術院会員
アトリエ　中蒲原郡村松町甲7,200（愛宕原）　Tel 02505-8-6576

ごあいさつ

東京支部長　佐　伯　益　一　（旧中27回）

本年度も又，東京支部大会を開催する時期となりました。毎回年を追うごとに親しい友人と会い，又新しい知り合いが増える事を無上の楽しみとするようになったのは，やはり，年令のせいかと思う此の頃であります。

２年前の６月に支部会報〝臥龍が丘は緑なり〟を創刊してからもう７号にもなりましたが是れひとえに役員及び同窓各位の御協力，御支援の賜物と深謝申しあげております。何分共に素人の作る会報ですので内容等意に添わぬ面も多々あると思いますが，この会報を通じて表面には現れぬ根強い同窓各位の交遊が図られており且つ成果をあげているものと確信しております。因みに本部に於ても会報〝松城〟が創刊され，已に第３号に達している事も東京支部の会報発行に大いに據る処があるのではないかと考えております。

同窓会の在り方，進め方等についての存念はすでに書き盡し，語り盡くしております。創刊以来の会報をもう一度顧みて頂ければ幸いですし，今重ねて述べようとは考えておりません。お互いに協力し合い先へ先へと進んでゆかなければならぬと思っております。

つい先日，旧高工のクラス会が家族同伴の上，別府で二泊の予定で開かれました。級友の招待でありましたが何れも土木の出身者なので話題は建設関係が中心であり，現役あり自営あり，第二の人生ありで仲々多士才々，夜の更けるまで話は盡きませんでした。勿論酒を汲み交わしながらの話でしたが，中で印象的でしたのは〝人生であれ商売であれ願望を持つという事が非常に大切である〟という話が出た事であります。他人と同じ様に考え他人と一諸に行動していたのでは結局は人のあとについてゆく事になる。人には運，不運というものが必らずついて廻る。それを如何につかみ，如何に運用するかゞ人生を大きく左右するしその運をつかむ為に必要なのが願望ではないだろうかということである。但したゞ，空想するだけのものではなく，こうしたいと思い，その為に行動し努力する願望である事だ。そのエネルギーによって運が近づいてくるのかも知れないというのが話の結論のようでした〝オレもそうだ，オレはオレなりに運を上手につかんだ方だがそれなりに又苦労もした〟と語ったのは今は港湾関係工事で年に何百億も受注する会社のオーナーであった。

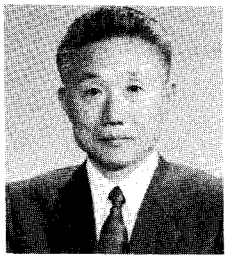
川崎市高津区で起きた２億円の放置事件の際，第一発見者のあとで警官が大挙して捜査に当ったが２番目のお金を発見することが出来なかった。これは只職務に忠実なだけで願望が無かったからではないかと最後には笑い話になったが，そう考えてみると何だかおもしろい一件ではあろう。同窓の皆さん総べからく願望を持つべしとお奨めしたい処であります。

さて最後になりましたが本年度母校の校長先生が交替されました。前任の法性先生とは着任以来，毎年２回位の出会いでしかありませんでしたが，東京支部大会には必らず出席して頂きました。ゆっくりお話をする間もありませんでしたがご挨拶の中で高潔なお人柄から滲み出る生徒を思う真情が切々と身に伝たわってくるのを覚えております。此のたび定年で学校を去られる事は誠に残念ですが向後何処に居られても益々御健勝の上第二の人生にご活躍される事を祈っております。

又新任の渡辺先生には来だお会いしておりませんが，支部大会には出席されます。今後よろしくお願い致しますと共にあと２年後に迫った創立80周年記念，諸計画に対し立派な成果を挙げる事の出来るよう茂野同窓会長と共に大いに頑張って頂きたいと期待する処であります。勿論吾々同窓会員も全力を挙げてご協力申しあげる所存であります。

あい変らずの駄文で恐縮でしたが所感の一端を申し述べました。平成元年度の支部大会を祝福し同窓各位の益々の御発展と御健康をお祈り申しあげ御挨拶といたします。

ご　挨　拶



新校長　渡邊建夫（わたなべ たつを）先生

このたび，平成元年度の異動に伴い，県教育庁保健体育課から本校に着任いたしました。同窓各位の御指導，御協力をお願い申し上げます。

当地にまいり一カ月余り，早朝の愛宕山を散策しながら緑豊かな自然の恵みに身も心も洗われる思いで，感激ひとしおのものがあります。

先般，祝日みどりの日に，わが国短歌の重鎮，千代国一先生の歌碑除幕式が挙行されました折，先生と臨席の見方謙策先生から，異句同音に松高の後輩には村松の自然の如く，おおらかな人に育てて欲しいと託され，教育観の琴線に触れた思いです。このことを大切にしたいと思います。

さて，時流の勢いは，かっての松高の伝統を大きく変えております。現在中学生の総てが高校に進学する時代です。当然学力差は大きく開き中学校側の進路指導と保護者の希望が絡み合い，本年度の本校入学者数は７０名余の定員割れを生じ，受験生全員を入学させることになりました。

入学生の中には，中学生の学力にも達しない，また，自己教育力に欠ける生徒もおり学習指導の成立に，あるいは基本的生活習慣の確立に教師は懸命に努力しております。

一方，人間性豊かな生徒も多く，学習や文化・スポーツ活動に励み，貴重な青春を充実させております。

また，昨今の高校生に共通している主体性や自律性の欠如そして易きに流される傾向は，本校においてもみられます。さらに，バイク事故，飲酒喫煙，性非行等々，本来，家庭教育力に与る面も学校に持ち込まれ，生徒指導上，教育の負担は増えこそすれ減ることはない状態です。

このような実情であればこそ，私共教師は持てる知恵を結集して，指導体制が効果的に機能するよう，今後一層の努力を重ね，21世紀に有為な人材として活躍できるよう生徒の資質向上を図るともに本校の80周年を２年後に控え，文化・スポーツ活動の振興を重点に生徒の活性化を目指す所存であります。

東京支部同窓会及び各位の御発展と御健勝を祈念申し上げ，近況報告旁ご挨拶まで。

（昭和９年２月生，上越市出身，東京教育大卒
県教育庁，保健体育課より転任）

収支決算報告

自昭和63年４月１日
至平成元年３月31日

松高同窓会東京支部

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前期繰越金	150,372	大会経費	929,100
支部会費	648,000	会議費	153,025
大会会費	837,000	払込手数料	9,500
寄付金	90,000	通信費	238,110
雑収入	162,000	印刷費	759,600
雑収入（その他）	42,917	事務用品費	5,056
		雑費	128,834
		次期繰越欠損金	△292,936
合計	1,930,289	合計	1,930,289

貸　借　対　照　表

平成元年３月31日

資産の部		負債の部	
項目	金額	項目	金額
郵便貯金	33,137	立替未払金	136,073
		印刷費未払金	190,000
		繰越欠損金	292,936
合計	33,137	合計	619,009

上記の通り報告いたします。

平成元年４月15日

事務局　中村倉吉㊞

会計　岡本和子㊞

監　査　報　告　書

上記の収支決算書は監査の結果，適正であると認めます。

監査　芳賀健一㊞

〝ありがとうございました〟

63年度分会費納入状況

昭和63年度の会費納入状況につきましては，３月末日現在，212名の方から会費が送金されました。納入された方の御氏名は下記の通りです。有難く御礼申し上げます。引き続き平成元年度分会費も納入していただきたく，振替用紙をお届けしてありますので，何分よろしくお願い致します。

63年度会費納入者氏名（年額3,000円，敬称略）

〔旧中〕74名

長野武夫，相田英三郎，川瀬五郎，渡辺文男，相田栄七，水尾広吉，村田泰次郎，横山信夫，小田恕哉，片桐賢太郎，川崎進一，伊藤十思夫，山口甚三郎，千代国一，樋口菊時郎，見方謙策，宮嶋八弥，大橋文夫，斉藤誠七郎，矢部五郎，横松宏平，佐久間精一，二平晶，山崎正男，関谷拾蔵，安中盛介，亀嶋謙，田代正夫，中村倉吉，板垣文平，茂野宏一，松田長四郎，芳原英男，寺田徳和，小島真一，佐久間二郎，広瀬憲，宮健三，吉田正平，北沢卓夫，武藤三郎，福原平八郎，佐伯益一，中野博，西山荘平，吉田公男，波田野義孝，熊倉悟，相田和平，笠原敬介，斉藤朝之，寺田徳隣，奈良泰夫，飯田清，小島哲衛，松尾昭夫，松藤貢，加藤豊，小浜毅郎，佐藤豊夫，相田幸四郎，笠原健二郎，成海正弘，早川清，相田忠亮，伊藤勇五，加藤三代太，斉藤和男，団順一，中村雅明，芳賀健一，丸山裕平，渡辺方夫，長尾昭次。

〔旧高女〕18名

藤崎トヨ，新保ミワ，川西恒子，大橋トヨ，大橋玉枝，神田マサ，熊倉芳枝，渡辺ミツ，内田道子，田村ミツエ，小林早月，佐藤玲子，岡本和子，鈴木節子，石井洋子，丸山セイ子，杉山和子　横溝田鶴。

〔高校〕115名

青木猛，今井正，杵渕政海，近藤毅夫，川合敏男，篠川恒夫，坪谷次郎，長沢友次郎，大橋秀雄，伊藤勤吾，亀山知明，剣持常泰，関孝世，高橋研治，長谷川五郎，渡辺八郎，小池生夫，佐藤八重，奥津嘉雄，大島エミ，土田孝志，木村時也，杉山喬，鈴木多喜男，鈴木忠雄，二宮文三，加藤美智子，斉藤英子，鶴巻旒三，大江佳一，今井道夫，清野一夫，阿部龍介，新井康夫，熊倉芳夫，馬場清司，藤木恒芳，広田達衛，金子鶴男，岡田見津夫，高地一郎，博井了，浅井昭男，五十嵐健，沢出赳允，坂爪圭子，鈴木ヤヨイ，馬場淑子，小野里康興，高橋睦子，七里孝子，松本豊子，山崎亨，八木又一郎，加藤久子，田川百合子，深見洋子，近藤英洋，梅田久次，山崎輝雄，羽下信弘，緒方美恵子，伊藤馥，関塚豪，塚田勝，堀直昭，関和世，吉井清，岡部ユキ，片柳ムツ，木村孝子，久我マキ，佐藤旬子，治田レイ子，山西愈佐子，石黒四郎，升本久子，沢出晃夫，大橋貞夫，近藤尚志，清水公哉，鶴巻浩，米山正，宮沢正由，熊倉悦子，真水道子，新保優，大野靖子，寺山征子，小日山芳栄，今井孝宏，朝倉克己，安中啓作，佐藤赳，田代信雄，寺山和夫，羽下早苗，山田のり，山田孝美，飯島玲子，斉木明子，中山斉子，由良美智子，山岸もと子，佐々木秀和，富田幸男，三室茂和，荒井るり子，鈴木則子，大鷹みち子，佐藤知伸，石井典雄，岸谷武，近藤洋輝，佐久間英輔。

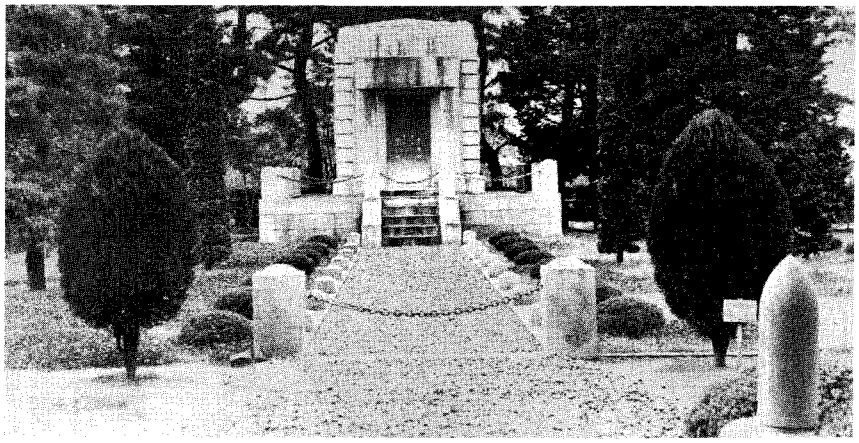
〔特〕５名（旧中）

吉田忠至，田中正紹，佐原博，五十嵐喜作，佐野善吾。

（平成元年３月末日現在）合計212名

思い出の写真館

秘蔵写真をお貸し下さい

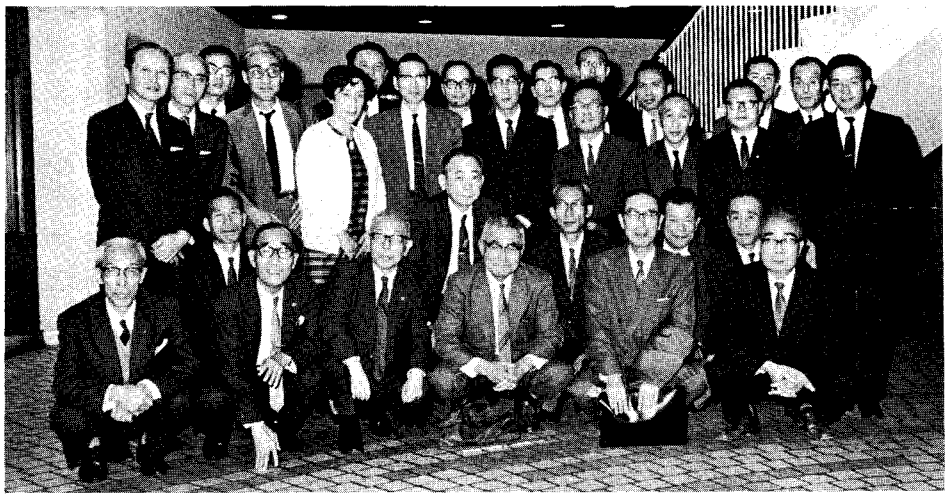


天皇，皇后両陛下のお写真及び各種勅語，詔書等を安置してあった奉安殿である。

赤レンガの学校正門を入るとすぐ左側にあった。生徒は登下校の際必らずこの前で最敬礼をすることになっていた。

この奉安殿は昭和６年の母校創立20周年記念事業として当時の第６代鈴木諒校長が建設を企画されたが途中転任され，次の第７代内田娯老校長が後を受継ぎ建設された。昭和７年11月３日竣功式と奉遷式が行われたが，終戦後は直ちに取り毀わされたが詳しい日時は判らない。

（佐伯益一）



昭和45年５月の支部同窓会と思われる。
物故された方も随分と居られる。（福原氏蔵）

（前略）

７日夕，帰宅致し，当時（※何年頃か？）の世話人を調べましたら，川瀬五郎君，水尾正二君，西潟新吾君，中島敏雄君，亀嶋謙君，山村勲君，以上の６名であることが判明しました。その方々のお骨折りで44年の同窓会が開催出来た事が判明致しました。その時の案内状に名簿作成云々が記載されていました。

名簿は不完全ながら水尾君の非常なお骨折りによって昭和45年に作成され水尾君から皆様へ配布されたと承賜っていました。

昭和45年度のもの１冊小生の手元にありますので御送付申上げます。尚内部に多少手入れの部分がありますの

で御諒承下さい。

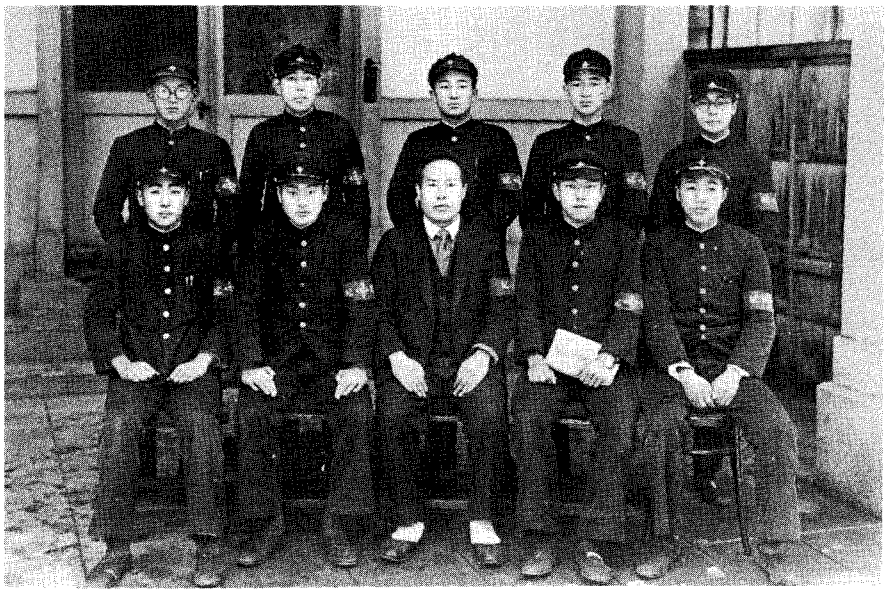
写真の件ですが写真箱を全部調べましたら１枚それらしいものが出て参りました。これは会費の中に代金は含まれていなかったやに愚考されます。私の記憶では村松出身の水島写真館の方が突然出席されて撮られたように思います。この点も当時の世話人の方々と，記録とを調査して御返事申上げます。

念の為写真も１部同封いたしましたからお受取り下さい。色々と皆様に御満足のゆく御世話の出来なかった事を申訳なく思っています不悪御了承下さい。

尚小生事昨年世話人を辞任し第14回卒業生斉藤一男氏が村松高校（旧中学も含む）卒業生同窓会東京支部長に就任されました。

９月８日（※何年か？）
成田　均（※旧中５回）
福原平八郎様（※旧中 26 回）

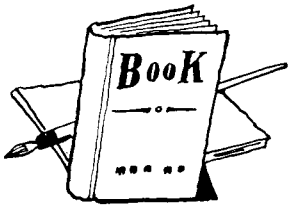
冬のある日の風紀週番一同（旧中22 回）の記念撮影
（昭和11年12月ごろ校舎前にて）



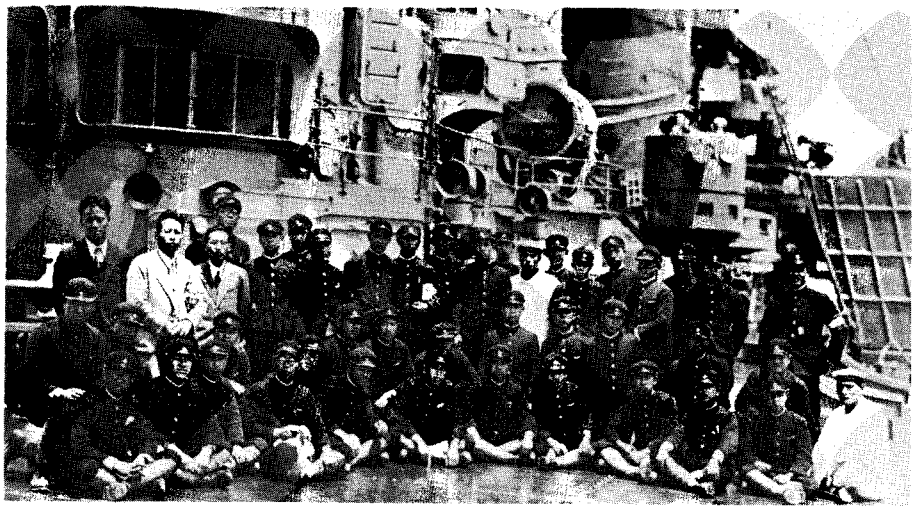
阿部福二郎，式場（弦巻）貞介，故手代木定家，斎藤義家，故板垣修一
故中川忠，故土田乙臣？，故斎藤教諭，故熊倉民男，故歌川拡之

旧中22回生徒の週番長は斎藤敬亮氏，白井弘一氏（故人）で，週番長は笠原幸雄氏ほか７名，副週番長は伊藤省三氏ほか７名であった。中学五年生になると，ほぼ全員が一週間交替で風紀当番をつとめる。当番は，緑色の生地に風紀という文字と校章を白く染め抜いた腕章を左腕につけ，下級生に対し秩序を守り，規律正しい生活を送るよう指導，監督していく責務をもっていた。とにかく，村松高女の女学生に，みだりに声をかけることなど，決して許されなかった時代のことである。

（斉藤朝之）



重巡洋艦「鳥海」の艦上で修学旅行生徒（旧中21回）の記念撮影
（昭和10年5月横須賀軍港にて）



黒い冬服の生徒一同は，強い日差しの反射のせいか顔まで真っ黒になっている。（引率は後列左から本多，斎藤，里見教諭）後列右端に腕章をつけて立つ人は，海軍の下士官でほかに白い作業服の水兵2人が生徒たちと仲良く並んでうつっている。

ところで，旧中22回生徒も昭和11年5月3日に村松駅から電車に乗り，7泊8日間の修学旅行（東京，関西）に出発した。参加47名の生徒一行は，横須加海軍航空隊を見学した後，やはりこの鳥海に乗艦している。（引率は石田，斎藤，笠原教諭）しかし，写真はない。生徒の茂野さん（故人）は，臥龍誌第24号に，「航空隊の見學を終って吾々の待望久しかりし軍艦見學。一萬噸級巡洋艦鳥海だ。近づくと益々大きく吾々にのしかかって来る様に感ずる。銀色の山だ。ゆったりと休息しているすべてががっちりして居る。ニューッと蝸牛の様に突き出て居るのは二〇糎の巨砲だ」と述べている。（鳥海の兵装は，口径20センチ主砲10門，12センチ高角砲4門）

（斉藤朝之）

卒業の日近く、（旧中26回）
臥龍会員の記念撮影（昭16年1月）

陽光うらゝの三月，残雪なほ日々ゆらぎて花樹，香を抱くも近し，永かりし冬の眠りも覚めて，吾等が幸を祝福するか。

友よ!!　今や直面する忍苦の現実へ，手を取りて，共に，荒浪磯遠く漕ぎ出でん哉

さはれ，思いぞ出ずる〝別離〟の夕べ
ありし日の〝追想の現映〟を
めぐる月日を超えて永遠に生くるなる，
吾等が若き日の思い出の鍵をわかたん哉。

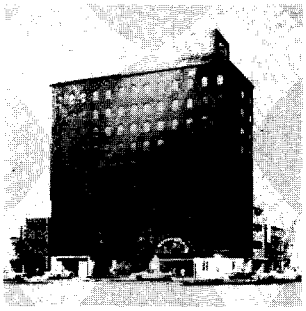
昭和16年1月作　（福原平八郎）

支部会員千代国一氏（旧中第18回卒）の歌碑が村松町城跡公園に建立され，本年４月29日午前10時より現地に於て除幕式が行われた。千代氏は歌人として夙に著名で100余名のお弟子さん，歌仲間の方々が発起人となり氏の故郷村松に建立したものである。祝宴は村松町〝新滝〟に於て開かれ同級の見方謙策氏，新潟放送の梁取清助社長（旧中23回卒）が出席し，祝辞を述べ新潟日報紙上でも紹介された。

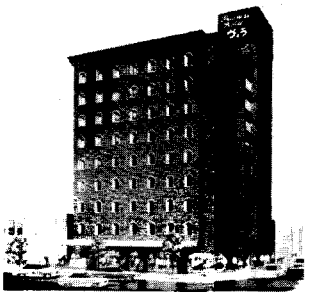
千代国一氏略歴

大倉高商（現東京経済大）卒，昭和15年〝国民文学〟入会，松村英一に師事，現編集人，選者，現代歌人協会理事，宮中〝歌会始〟選者，明治記念綜合歌会，委員

ビジネスに
2つのヴィラ

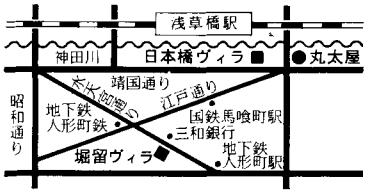


●日本橋ヴィラ
東京都中央区日本橋馬喰町二一二一一
電話（〇三）六六八一〇八四〇



●堀留ヴィラ
東京都中央区日本橋堀留
電話（〇三）六六四一〇八四〇
一一一〇一一〇

● シングル 6,500円より（税・サービス料込）



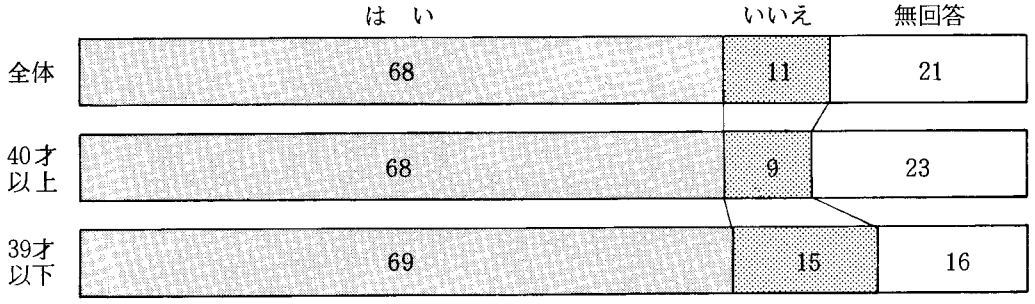
BUSINESS HOTEL ヴィラ

丸太屋株式会社
〒103　東京都中央区東日本橋２－26－８
電　話　03－862－0681

代表取締役副社長　塚　田　　勝
（高８回卒）
自　宅　浦和市原山４－23－12

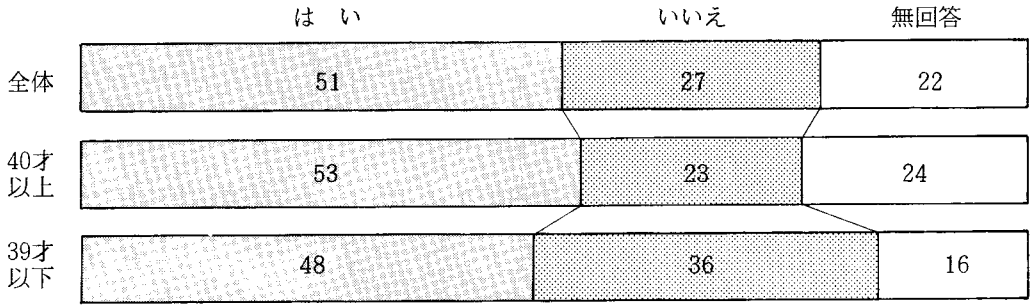
会員意識調査

● 同窓会の現状を知るためにも、会報の発行は必要である。



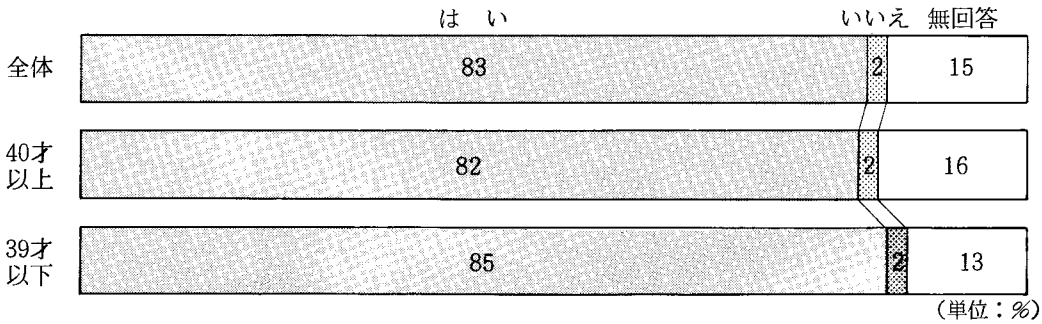
（単位：%）

● 総会には機会があれば出席したいと思う。



（単位：%）

● 同窓会（クラス会）には、機会があれば出席したいと思う。



（単位：%）

□ この調査は皆様より寄せられた調査カード（名簿作成用）中のアンケートにご回答のあったものを資料としています。（平成元年度卒業生名簿より）

蒲原鉄道物語り

蒲原鉄道の軌道(四)

旧中22回　高　地　　覚

昭和期に入る　不況は依然好転せず，金融恐慌の形をとって，事態は深刻化して〝昭和恐慌〟と言われるようになり，昭和2年4月日銀が各銀行に対する非常貸出しを声明した。健康保険法が全面施行され，銀行法，計理士法，商工会議所法が公布された。

小田原急行鉄道が新宿，小田原間を全線開業し，10月には全線複線化を完了し，チャールス・リンドバーグが最初の単独大西洋横断飛行に成功したり話題多い昭和に入った。

昭和2年には，客車を京浜電気工業（株）に注文し，村松停車場構内用地拡張，車庫増築，本社・村松駅に公衆電話が架線され，本社に構内電話が増設された。

年間で見ると旅客人員は289,866人（1日平均794人）で，冬季の通学列車は何時も満員であった。

貨物は17,183.3屯となり，片倉製糸工場の建設による特種貨物の増加で1日1里平均12円02銭と前々期比4円24銭となった。

収入は50,582円40銭，支出は37,711円25銭で差引益金は15,871円15銭となり，世間の不景気に依る打撃を受ける事なく順調に経過し，年6分の配当が続けられた。

昭和3年下期には，配当金は年6分の外，年2分の特別配当金が出たが，政府補助金も続けられ，借入金は，38,000円になっている。

第2期線延長工事　昭和3年1月16日，定時株主総会で，樋口俊太郎退職し，取締役の欠員補充に当って，近々中に延長工事問題の実施が迫って居るので，此の際相当有力者をと考えて居り，腹案として金津村中野忠太郎氏を推薦し度いと初めて延長線工事計画に付いて言明した。

株主より賛成々々の声が起り，選挙の煩わしさを省いて推薦し，相談役には，延長問題に付いて相当有力な技術員が必要であるとして以前鉄道省嘱託であった貴族院議員の新庄直知子爵を推薦し，陣容が整えられた。

昭和3年7月16日の定時株主総会に於いて，加茂に至る11哩延長工事を施工するのに工事費80万円を必要とするが経済界が不況の時であるので，此の莫大な資本増加に関しては，重役間で充分研究して，増資によって旧株主に迷惑を不成くかけないように考慮する事となった。

先ず60万円を増資し，不足の20万円に付いては，五泉村松間の鉄道財団低当を設定して，之を担保として，銀行から借入する考えを述べ，定款の一部を改正し，拍手さえ起って愈々大工事のスタートが切られたのである。

併せて，事業を拡張する為，専務取締役1名を設けて事務が渋滞しないようにと配慮し，社長に中野忠太郎，専務取締役に茂野誠衛を推薦し，他は重任に決定した。

中野忠太郎は茂野誠衛の義父に当っている。

資本金は85万円となり，株券も，5株券，50株券,100株券の3種を加えて5種とし，取締役の所有すべき株式数を100株以上，監査役は50株以上とされた。

電動客車2両の電灯装置を改良し，五泉駅ホームの拡張をし，コンクリートに改修されている。

第2期工事着工　昭和3年6月26日，村松・加茂間の測量を終了し，8月8日には鉄道省監督局から延長線路の視察があり，9月1日には鉄道用地巾杭打の為，川原技師外4名が来町し愈々工事に着工した。

9月17日には日本興業銀行鑑定部より，既設線と新線路査定の為，松根氏が来社され，10月27日には重役会で興銀より借款の重要案件に就いて決議された。

下期に入って貨物が2,171.7屯も減少したのが目立つが，愈々自動車の発達に伴え，近距離貨物に影響を及ぼし始めたのである。

昭和3年12月15日より，増資株の募集に着手したが，財界不況の事であり心配されたものゝ，沿線有力者の御支援によって予想以上の好成績で結了した。

石本儀栄門病死，神保泰一郎家事の都合で，滝沢真五郎は病気の為辞任を申し出たので，昭和4年3月3日の臨時株主総会で株式募集結果，払込承認の報告が出来な

くなり出席株主の中から，検査役として小鍛治喜次郎，熊倉兼蔵の両氏を指名して証憑書類の調査に入り，報告するハプニングがあったが，新株主は580名，此の株式数は12,000株である。

事業拡張に従って監査役を1名増員して4名とし谷貫一郎，永井栄松，山崎新次，馬場八太郎が選出され取締役では服部暢平，村川名平が辞任し石田友吉，浅見鶴吉の両氏が選出され，慰労金は財政事情より取締役200円，監査役100円宛贈呈したが9月1日に水野辰作も死亡して創立の陣容も大きく変った。

昭和4年下期には，電車，貨車，電動機，橋桁，軌条等の購入契約が為され，建設工事は村松より黒水に至る第1，2工区は土工9割，軌条敷設工事5割程度迄進行し，黒水より加茂に至る第3工区は，加茂川橋梁，加茂隧道附近を除いて9割程度迄進行していた。

だが自動車の競争が愈々激甚となって行き，財界の趨勢は金解禁の唱導と共に，之を見越しての株式暴落で，益々不振は深刻なものとなった。

昭和4年7月9日政策的失敗と言われる，浜口内閣が財政緊縮の為「金解禁」の方針を声明し，10月24日にはニューヨーク株式が大暴落して世界恐慌が始まってしまった。

株主からも株式の多額の一時の払込みは苦痛であり，一考され度い発言も出，財界の不況の深刻さを示している。

昭和5年5月29日には，電気機関車が竣工して到着したが，4月4日には電動客車で11, 12, 13号が竣工届出をし，村松停車場乗降場擁壁，上家を改築し，本家附属渡り廊下，車庫の増築，保線工手詰所が新築され，創業時の電動客車（デ1，2号）は「トロリーポール」から「パンダグラフ」に変更された。建設工事が進渉するにつれて借入金も増え，昭和5年上期で745千円，鉄道財団抵当借入金20万円となった。村松・加茂間の建設工事が全部竣工し，村松・東加茂間の運輸開始の認可申請を鉄道省に提出されたのは7月1日で，東加茂間は10月9日であった。

運輸営業開始に付き接続駅共同使用の認可は10月2日であったが，村松・東加茂間は7月22日開業し、東加茂・加茂間は10月20日の開業となり，五泉・村松間4.2粁，村松・加茂間17.7粁の全長21.9粁の蒲原鉄道は信越線に接続し，営業が開始され物資の輸送が一気に増強された。

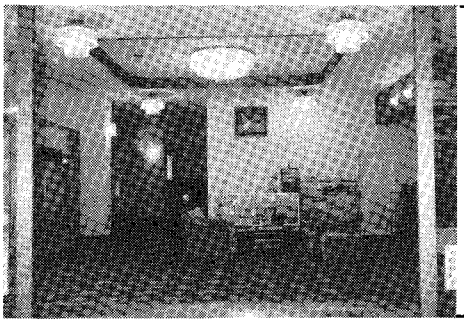
開業早々軌道の沈下，屈曲甚だしく高低通り直しに全力を注がれたが，11月5日午前11時10分，五泉起点21粁（陣ケ峯・加茂）が連日の大降雨の為，線路・築堤崩壊し，翌日午後3時迄運休となったが，恒例となったように襲って来る厳しい災害の予告の様であった。

此の間，監査役の谷貫一郎が辞任し，10月28日には取締役石田友吉が死亡している。

11月10日に村松・加茂間運輸開始の全通が挙行された。

（つづく）

（元蒲原鉄道常務取締役）



阿賀野川ラインの景勝地

きりん山温泉　ホテル　福　泉

磐越西線．津川駅・鹿瀬駅．下車バス10分
電話　02549－2－3131
（東蒲原郡鹿瀬町鹿瀬）

村松老人が語る(二)

健康な一生を送ろう!!

広　報　部　会

「しばらくですね」。「本当に御無沙汰致しました。今日も宣しくお願い致します。」「そうせば，〝いっちゃいい一日の過し方〟なんて話をしましょうかね」相変らずお元気な村松老人です。

「まず，朝目が覚めますわね。人の一日はここから始まりますろ？。お天道様が出る一時間前に起きるのが理想なんですて。この時間は，あたりがひっと静かで落着いているし，よう寝た後の頭や体はすっきりしていて，考え事や，人の心を高揚させるのに，いっちゃいい「時」なのに，今の人はみんな無駄にしていなさる。……え？何か言いたげだども，まあ，しまい迄聞いておくんなせや。」「朝の排泄，これは毎日自然に出る様に体を整えるのが，大切です。次に，洗顔は牛乳を使い，ついでに，手足もきれいに洗う，これは水でもお湯でも結構です。手足を度々洗う事は，「もんぼれ」の予防になりますけ，心がけるといいですがね。歯みがきは，昔は薬効のある木の小枝を噛んで，繊維状になしたもので，歯を掃除したものです。又，黒ゴマを毎日スプーンに，二，三杯噛むと，歯を丈夫にする。とも言われています。この黒ゴマは薬になるすけ，ゴマ合え等にしていっぱいこと食べた方が良いがんです。

朝っぱらに，金，銀，銅等の器に入れて冷やっこくした水を飲むのもいい事です。アルミやプラスティックの容器はやめた方が良い。」「どうです？　気分が清々しくなってきたでしょう。そこで，吉祥物を見る。一番は，朝日です。御来光をあびるのは元旦だけ，ではあったらもんですて。きれいな花や植物には清らかな生命力が，良い書画には高次元のパワーが溢れているのです。良いエネルギーを全身に受けて，鏡を見てごらんなさい。たまげる程良い顔をしていなさる筈ですよ。鏡の中にはいつもいつも良い顔の自分が居る，と言う様でねばならない。美男子だとかブスだとか，上(うわ)っつらでのうで，顔にはその時の精神や，健康状態が出るものです。」

「目，生々と輝いていなさりますか？。目には食事が大切です。ひっと辛い，塩からい，酸っぱい物や，便秘をうながす様な物を避けるべきです。目が疲れた時は，瞼の上に牛乳を湿布すると良いですよ。遠くの方や，月，星を見る，目だけを動かして左右を，二，三分づつ見る。こうして緊張を解(ほぐ)すのです。足，手の甲に二本の血管が通っていて，これは目の奥まで続いています。こゝを洗った後や，寝る前に良くオイルマッサージすると良いがんですて。そして気持を安定させる事です。

「耳」は鼻，のどと繋がっていて，風邪等にかかると中耳炎を引起したりしますから，注意が必要です。黒レーズンは，耳に良いと言われています。

「鼻」は，頭への門と言われ，吸った空気をきれいにして肺へ送ります。乾き過ぎない様に時々鼻の穴にゴマ油を塗って下さい。

「喉頭」は声を出して言葉を話す，と言う人類にとって重要な知的伝達をしてくれます。丁字(ちょうじ)を口に含んでいると声，喉を保護します。もう一つ。含嗽(うがい)が大切です。ぬるま湯は口の中をきれいにし，冷たい牛乳は口内炎に良く，ゴマ油を滴した水は歯肉，声帯を丈夫にし，口内炎を予防します。又，上下の顎に力が付き，顔の輪郭を美しくします。お前さま方も，仲々良い顔をしていなさいますよ。

「毎日の運動」は朝，ハアハアと口で息をするくらいが丁度良いがんです。運動には色々ありますが，ヨーガ体操は背骨や，胃腸に有効です。

「入浴」は健康な人は，頸から上は冷水を，下は温水を使うと良く，又ヒマラヤ杉などの葉で体をこすると香りも良く，心身共にさっぱりします。

次に，オイルマッサージ，これはゴマ油を使います。毎日は無理だと思うども，休日なんかに出来るだけやって下さい。熟睡促進，老化遅延に役立ちます。全身マッサージが困難な人には，自分で出来る良い方法として，頭，顔，手足のマッサージがあります。頭のマッサージは中枢神経，頭部の疾患もんぼれなどに有効で，視力を増し，若白髪，脱毛，掻痒を予防します。顔のたるみは，精神のたるみ，気をつけて下さいよ。足，特に足の裏に

は重要なツボや，身体の器官の全ての反射区があるので，丹念にマッサージをして下さい。ゴマ油を使うのは油の浸透が老廃物を溶かして体の外に流し出す働きをする為です。ゴマ油はコレステロールを解かしますから，料理にも大いに使って下さい。食後一時間は，マッサージをしてはいけません。

「昼食」は新鮮で温く，バランスのとれた物適量を，梅雨時には消化が良く栄養に富み，水分の少い物を，夏には甘味をひかえ，秋冬には酸味，塩味，辛味の強い食事は制限した方が良いのです。

「午後の休息」日本では重要視されていませんが，本当は昼食後二時間程静かに休んだ方が良いのです。頭や気持を休め，穏やかに過す，又午後の仕事の段取り等をゆったりした気分で考えるのです。そして密度の高い午後の仕事をします。

晩がたは軽いキャッチボール，散歩などをして心身の緊張を解し，精神のリフレッシュを図り夕食にそなえます。

「酒」は頭がはっきりしている間はいっくら飲んでもかまわねども，この判断は中々難かしい。大体人間は酔って来ると〝おら酔ってねよ〟などと言って，自己管理が正しく出来なくなるものです。そして夕食は，油の強い消化のわ〜り物は避けます。

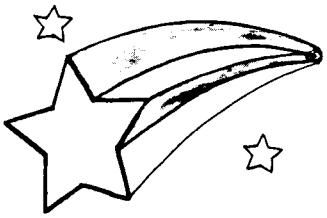
「一日の反省と瞑想」瞑想は若い人達の間ではやりつゝあります。これは精神の安定の他に，眠っている脳を覚まし，新しい自己の発見，新鮮なアイディアの閃(ひらめ)き等正しい瞑想は人間の無限の発展の源になります。

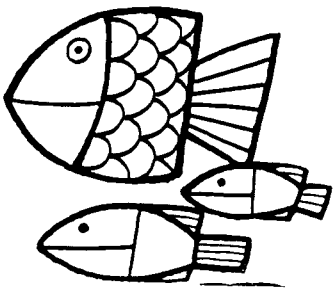
さて，お楽しみの「性生活」健康な人は，春秋は四日毎に，夏，雨季には半月に一回ぐらいにしておいた方が良いですて。冬は，これはお好きなだけいっくらでもどうぞ，と言う事です。男性には牛乳，女性にはゴマが良いそうですよ。

体力や消化力は，冬に最も強く，晩秋から初冬が一番健康的であり，夏，梅雨時には弱いのです。今迄話した事を季節，年齢，性別，環境，体力，疾病等を考えて，自分を良く知って，良い方へ各自正していけば良いのですが，まあ人間は安易な方へ流れやすいので気をつけて下さい。自分には甘いものですて。

人は常に冷静沈着な気性を維持し，人生，幸福の真の意味を理解し，又深く考える心構えを発展させるべきです。

では，次回は，ツボ，経路，薬草等の話をしましょうか。　（つゞく）





コトブキドライセンター

株式会社　寿

代表取締役　中村倉吉

（旧中第22回卒 五泉出身）

〒108　東京都港区高輪2－1－24

TEL　03（445）6501－2

永幸産業株式会社

代表取締役　伊藤勇五

（昭和23年旧中33回卒 鹿瀬町）

〒150　東京都渋谷区道玄坂2－16－8

TEL　（03）770－3291

編集後記

総務部会から

◎　4月15日（土）支部幹事26名は午後2時より高輪陽寿院に集合，支部大会開催の細部打合せを行った。打合せ終了後大会案内状発送のための作業を行い遅くまで大忙しであった。　（大会通知発能風景）

広報部会から

◎　支部会員の投稿がまだまだ少いようです。振って投稿をお願い致します。

◎　併せて広告の件もよろしく。

企画部会から

企画部会としては次の各項について実施を考えておりますので各位の御意見等をお聞かせ頂ければ幸いです。投稿，お便り等をお待ちして居りますので御協力下さい。

① 新年会，忘年会等の開催。

② 日帰りハイキングや一泊小旅行の実施。

③ ゴルフコンペの開催。有志によるゴルフ部会などを作るのはいかがなものでしょうか。

④ 野球ナイター等の観戦。

⑤ 観劇，落語等の観賞。

⑥ カラオケ大会の開催。

⑦ 家庭不要品等の交換。（書籍等も含む）

⑧ 其の他同窓懇親に役立つような事項。

財務部会から

◎　平成元年度分会費未納の方はなるべくお早めに納入下さるようお願いします。（年額3,000円郵便振替をご利用下さい）。

平成元年6月　　第　7　号

発行人：新潟県立村松高等学校同窓会東京支部

広　報　部

事務局　〒108　東京都港区高輪2－1－24 ㈱寿内

TEL　03-445-6501

郵便振替　東京　2－136445

校　歌

旧県立村松中学校校歌

1. 塵の巷を遠ざけて
雲たち迷う白山の
麓に立てる松の群
見よ凌宵の気を含む

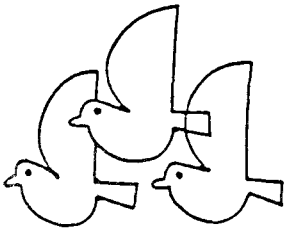
2. 緑色濃き木陰には
夏も尽せぬ泉あり
湧きて流れて末遂に
汪洋として海に入る

3. 落葉をくぐる流れにも
岩石砕く力あり
清きは水の姿にて
強さは誰が心ぞや

4. 万緑の気地に潜み
風雪野山に荒るる時
色さえ変えぬ常磐木の
強きは誰が操ぞや

5. 八億亜細亜の民率い
行手遥けき文明の
海原遠く漕ぎ出でん
これぞ吾等がつとめなる

6. それ英雄も人傑も
人の子吾等がたぐいなり
嗚呼松城の健男児
勇みて立つべし諸共に



旧村松高等女学校校歌

1. 愛宕の山のむら松の
常緑色の常磐なる
操を胸に日の本の
をみなの徳を磨かばや

2. 心は身はも真夏なほ
日に輝ける白山の
雲にもまさる清さもて
正しき道を進まばや

3. 其の名も高きこの里の
桜の花のうらうらと
のぼる朝日に匂うごと
気高き姿保たばや

4. 世界に比なくうるわしき
皇国の民と生れきし
幸をおもひていざやいざ
手を取り共に励まばや

新　校　歌

相馬御風　作詞
中山晋平　作曲

1. 普く照らす天つ日の
光を浴びて年々に
伸びてしやまぬ若松の
ときわの志操いや堅き
学徒われらの在るところ
明朗の和気みなぎれり

2. 見よ質実に清純に
進取の生気湧き溢れ
文明の花の咲くところ
希望は常に輝ける
道に我ら　進ましむ
努めなんいざもろともに

応援歌

1. 緑濃き臥龍ケ丘に
轟くは我等が歓呼
若人の高なる血潮
たたえつつ春の日めぐる

2. いざ叫べ若人の誇り
わななける力の腕
見よや君歓喜の胸に
輝くは永久の勝利

1. 臥龍原頭幾星霜
切嗟琢磨の功を経て
からくれないの香に匂う
誉れは高き松城の
健児が胸に血やおどる

2. 我等がえらぶますらおの
誉れは海の湧くがごと
望みは雲のゆくがごと
月の桂をなゆずりそ
栄えある名をぞとこしえに

1. 松城健児六百が
祖国の為に剛健の
大図をここに定めんと
送りいぞせし我が勇士
覇権をゆずることなかれ
我等六百ここにあり

2. 臥龍原頭精気あり
義憤に満ちし大丈夫が
驕奢の潮せきとめて
逸惰の眠り打ち破り
高うつ胸の雄叫びに
進めとなるを如何にせん

3. 今壮快の晴れ戦
見よ雄叫びの只中に
我等が望み一筋に
肩にぞかかる勇戦士
覇権をゆずることなかれ
我等六百ここにあり